2015年9月18日 ご参考資料

楽読（ラクヨミ） Vol. 1,009

Raku Yomi

海外情勢を注視し、FRBは利上げ開始を見送り

楽読（ラクヨミ）

nikko am fund academy

米FRB（連邦準備制度理事会）は9月16・17日に開催したFOMC（連邦公開市場委員会）で、利上げ開始を見送り、事実上のゼロ金利の継続を決定しました。これを受け、米株式相場は上昇する場面もあったものの、買いが続かず、結局、前日比マイナスで引けました。また、18日午前の日本でも、株価が軟調となっています。

今回、FOMCの声明文では、米国の景況判断が概ね据え置かれたほか、今年に関しては、FOMCメンバーの経済成長率およびインフレ率の見通しが引き上げられました。しかし、FRBは、世界経済の先行き不透明感やそれに伴なう足元での世界的な市場の動揺などが米国の経済活動に幾分影響し、同国の物価に対する押し下げ圧力がさらに高まる可能性があるとして、利上げ開始を見送り、海外情勢が米国に及ぼす影響をしばらく見極めることとしました。なお、政策金利については、FOMCメンバーの大半が年内の利上げ開始を引き続き予想しているほか、イエレン議長が会見で、次回10月27・28日も含め、すべての会合で金融政策を変更する可能性があると述べています。しかし、FOMCメンバーの2015～17年の政策金利見通しが下方修正されたことや、10月の会合までには6週間弱しかなく、海外情勢の影響を判断するには時間が十分でないとの見方などもあり、現状では、利上げ開始は早くて12月という観測が優勢な模様です。

米国で利上げが行なわれれば、2006年以来となるだけでなく、実質ゼロ金利という異例の金利政策が変更されることになるだけに、市場の警戒感は強くなりがちです。このため、利上げ開始のタイミングを巡って、市場が再度、神経質な動きとなることも予想されます。ただし、利上げ開始は、あくまで米国経済が正常化した結果であり、過熱した景気を抑えるためではありません。つまり、良いことの終わりではなく、悪いことが終わった証左と考えられます。また、イエレン議長が利上げ開始後の追加利上げを慎重に進める考えを示していることもあり、実際に利上げが開始され、不透明感が和らぐに連れて、市場は落ち着きを取り戻すと見込まれます。

FOMCメンバーの見通し（中央値）

（2015年9月17日公表）

（%）

	2015年	2016年	2017年	2018年
実質GDP成長率	1.9→**2.1**	2.5→**2.3**	2.3→**2.2**	n/a→**2.0**
失業率	5.3→**5.0**	5.1→**4.8**	5.0→**4.8**	n/a→**4.8**
PCEインフレ率*	1.3→**1.4**	1.8→**1.7**	2.0→**1.9**	n/a→**2.0**
政策金利	0.6→**0.4**	1.6→**1.4**	2.9→**2.6**	n/a→**3.4**

注：6月時点の見通し→9月時点の見通し　*エネルギー、食品を除くコア

FRBの発表資料をもとに日興アセットマネジメントが作成

米国の失業率と物価の推移

（2000年1月～2015年8月*）

信頼できると判断したデータをもとに日興アセットマネジメントが作成

※上記データは過去のものおよび見通しであり、将来を約束するものではありません。

日興アセットマネジメント

■当資料は、日興アセットマネジメントが市況等についてお伝えすることを目的として作成したものであり、特定ファンドの勧誘資料ではありません。また、弊社ファンドの運用に何等影響を与えるものではありません。なお、掲載されている見解は当資料作成時点のものであり、将来の市場環境の変動等を保証するものではありません。■投資信託は、値動きのある資産（外貨建資産には為替変動リスクもあります。）を投資対象としているため、基準価額は変動します。したがって、元金を割り込むことがあります。投資信託の申込み・保有・換金時には、費用をご負担いただく場合があります。詳しくは、投資信託説明書（交付目論見書）をご覧ください。

facebook twitter で、経済、投資の最新情報をお届けしています。